

第5部

統計をさらに知る ～その1～

統計でみえるセカイ

～ここでは、いくつかの統計データを用いて日本の今の姿を見てみましょう。～

◆ 日本の重心

○人口重心は岐阜県関市にある

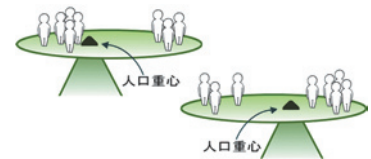
日本の国土をある一点で支えることができる「重心」はどこにあるでしょうか。

ここでは、日本の国土に住んでいる人を考慮した重心＝「人口重心」を見てみます。

人口重心とは、人口の一人ひとりが同じ体重と仮定して、日本の人口が全体として平衡を保つことのできる点をいい、人間の身体で言えば「へそ」に当たるものです。

日本の「人口重心」は5年ごとに行われる国勢調査をもとに公表されており、2010年には岐阜県関市（旧武儀町地内）にあります。

人口重心の動きを見ると、日本国内でどの方向へ人口が動いているのかわかります。長期的にみると、1965（昭和40）年～1970（昭和45）年に約8.3km 移動したのを最長に、その後は約1～3 km の移動となっています。人口重心は一貫して南東方向へ移動しており、首都圏の方へ人口が集まっていることを示しています。



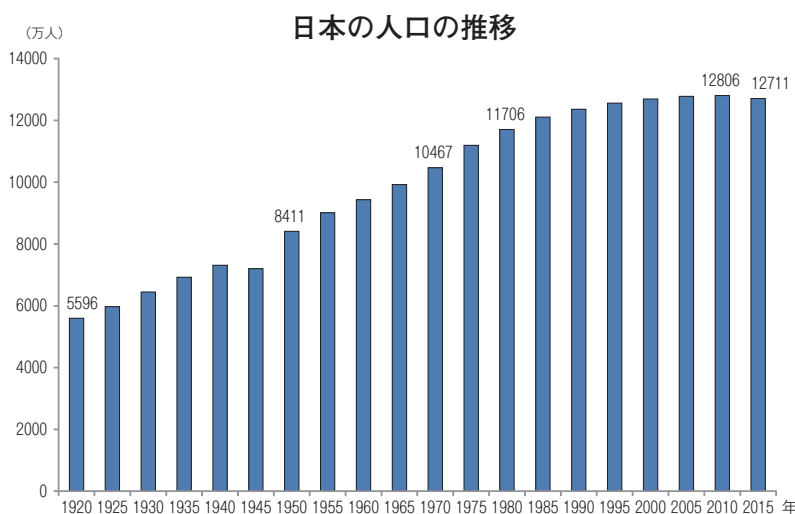
わが国の人口重心の推移 1965（昭和40）年～2010（平成22）年



◆ 日本は世界でも人口が多い国

○日本の人口は約1億2806万人

日本に住むすべての人の数を調べる「国勢調査」がスタートした1920年は5500万人。それ以降、人口は増加を続け、1970年には1億人を超え、2010年の国勢調査では、1億2806万人でした。しかし、長く続く少子化の影響により最近では人口が減少しており、2015年国勢調査の速報値によると、1億2711万人と5年前より約95万人減少しました。調査開始以来、初めての減少です。



注：1945年は沖縄県を除く。

資料：総務省「国勢調査」

○日本は世界で10番目に人口が多い国

世界の国々と日本の人口を比べると、日本は人口がとても多い国であることがわかります。

1950（昭和25）年では、日本は人口の多い方から第5位の国でした。

それからおよそ60年が経過した2010年では第10位。この60年間で日本の人口は大きく増加しましたが、インドネシア、ブラジルなどの国々の人口がさらに大きく増加したため、順位としては下がっています。人口が1億人を超える国は11カ国であり、世界の中で、日本は人口がとても多い国であることには変わりありません。

人口が多い国 1950年と2010年

(千人)

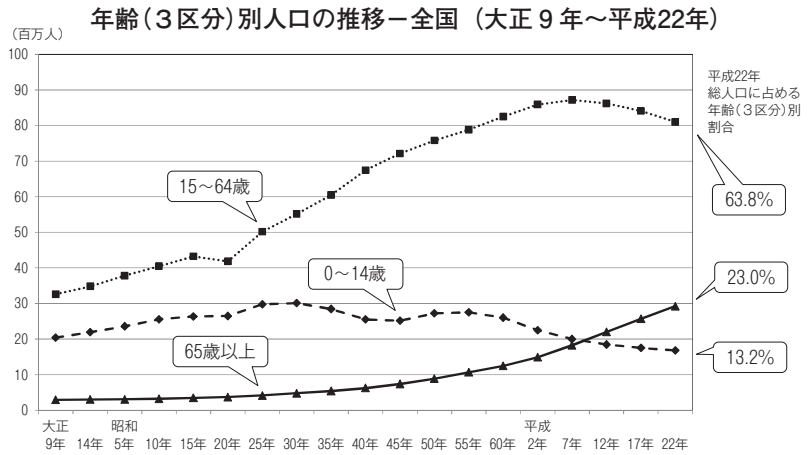
順位	1950年		2010年	
	国名	総人口	国名	総人口
1	中国	543776	中国	1359821
2	インド	376325	インド	1205625
3	アメリカ合衆国	157813	アメリカ合衆国	312247
4	ロシア連邦	102799	インドネシア	240676
5	日本	84115	ブラジル	195210
6	インドネシア	72592	パキスタン	173149
7	ドイツ	70094	ナイジェリア	159708
8	ブラジル	53975	バングラデシュ	151125
9	イギリス	50616	ロシア連邦	143618
10	イタリア	46367	日本	128057
11	フランス	41832	メキシコ	117886
12	バングラデシュ	37895	フィリピン	93444
13	ナイジェリア	37860	ベトナム	89047
14	パキスタン	37542	エチオピア	87095
15	ウクライナ	37298	ドイツ	83017
16	メキシコ	28296	エジプト	78076
17	スペイン	28070	イラン	74462
18	ベトナム	24949	トルコ	72138
19	ポーランド	24824	タイ	66402
20	エジプト	21514	フランス	63231

資料：UN, *World Population Prospects : The 2012 Revision* (中位推計) に掲載されている233カ国についての順位。各年年央（7月1日）現在。ただし、日本は総務省「国勢調査」による（10月1日現在）

◆ 日本では高齢化が進んでいる

○65歳以上の人は約4人に1人

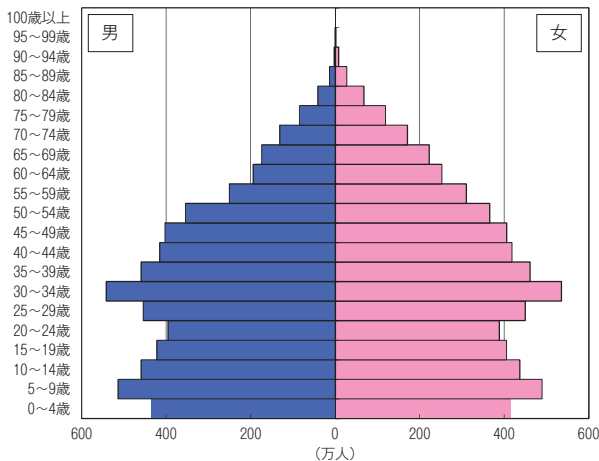
人口の推移を年齢別の割合で見ると、2010（平成22）年には15歳未満の子どもが占める割合が13.2%と減少する一方、65歳以上の人の割合が23.0%へと大きく増加しています。平均年齢も1980（昭和55）年の33.9歳から45.0歳に上昇しており、いわゆる「少子高齢化」が進んでいます。



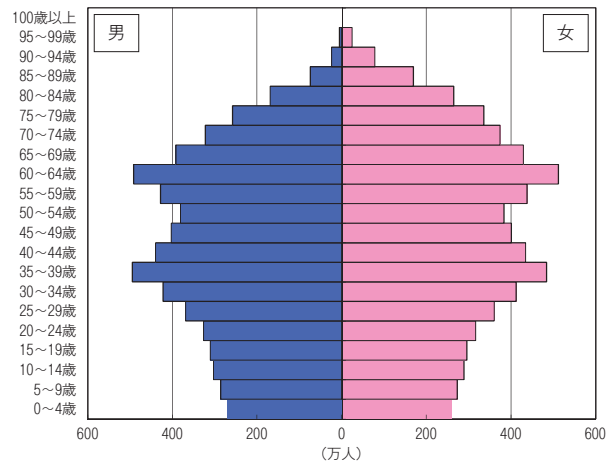
○男女とも60歳代前半の人が多い

どの年齢層の人が多いのか、人口ピラミッドで確認します。統計的にいえば、人口ピラミッドは男女年齢別人口データのヒストグラムであり、データの散らばり具合が一目でわかります。多いのは60歳代前半で、戦後生まれた「団塊の世代（第一次ベビーブーム世代）」と呼ばれる人達です（統計で言う最頻値はこの階級にあります）。その次に多いのは30歳代後半の「団塊ジュニア世代（第二次ベビーブーム世代）」で、「団塊の世代」の子どもに当たる世代です。1980年と2010年を比較すると、円錐形から、高齢層に偏ったつぼ型に変化していることがよくわかります。先ほど見たように、平均年齢が上昇しているのは、若い世代が減る一方で、年齢が高い世代が増加したためということがよくわかります。

1980年人口ピラミッド



2010年人口ピラミッド



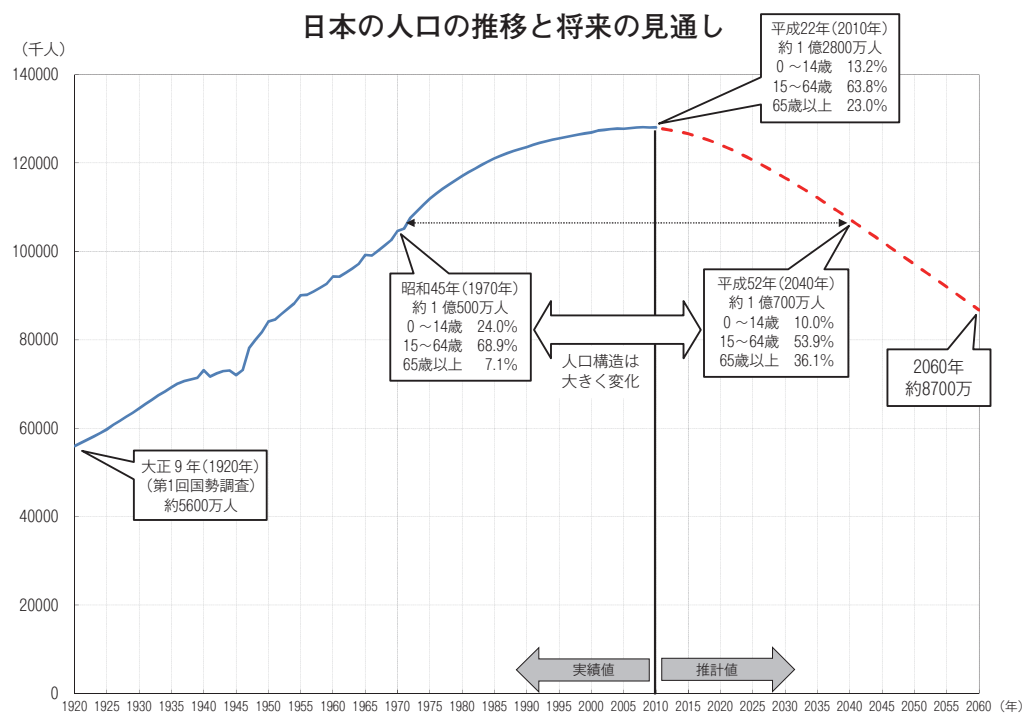
◆ 将来の日本の人口はようになっていくのだろう

○日本の人口は2060年には8700万人まで減少する見込み

統計は現在のデータを調べるものですが、過去に調べてきたデータをまとめ、これまでどのように変化してきたのか、傾向を知ることによって将来を予測することにも使えます。すなわち、これまで変化してきた傾向が続くと、将来はどのような姿となるのか、予測することが出来るのです。私たちの社会は人と人のつながりで成り立っていますから、人口（人の数）は社会の基礎であり、将来どのような社会を作り上げていくのかを考えていくためには、将来の人口の姿を把握することが必要です。

将来の人口は、これまでの出生数や平均寿命などの傾向をもとに国が推計しています。

この推計によると、2060年には8700万人に減少すると見込まれています。これは、1955年頃の人口と同じくらいですが、当時とは0～14歳の子どもや65歳以上の人の割合が大きく異なっており、いわゆる「少子高齢化」が進んで大人が中心の社会になると考えられます。



資料：総務省「国勢調査」「人口推計」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2012年1月推計)

◆ 日本ではどのような仕事で働いている人が多い？

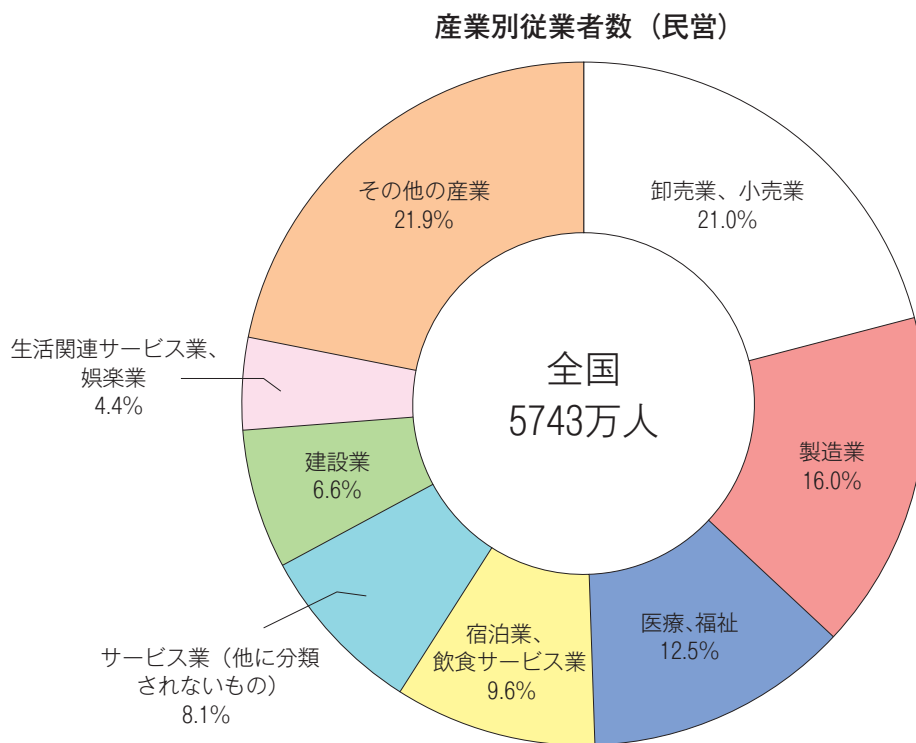
○最も多いのは「商業」で働く人

多くの人に住んでいる日本ですが、それではどのような仕事で働く人が多いのでしょうか。

経済に関する国勢調査とも称される「経済センサス」でみると、「卸売業、小売業」、いわゆる商業で働く人の割合が約5人に1人の21.0%と、最も多くを占めています。

2番目に多いのは「製造業」で16.0%です。製造業は日本経済を支え、世界トップの技術を誇る基幹産業であり、海外への輸出も多く、景気動向も左右する重要な産業です。

3番目は「医療、福祉」の12.5%で、高齢者の増加傾向を反映し、この産業で働く人も増加しています。この他、観光に関わりの深い「宿泊業、飲食サービス業」も多くを占めています。



「その他の産業」

- = 農林漁業 + 鉱業
- + 電気・ガス・熱供給・水道業
- + 情報通信業 + 運輸業、郵便業
- + 金融・保険業 + 不動産業、物品賃貸業
- + 学術研究、専門・技術サービス業
- + 教育、学習支援業 + 複合サービス業

注：事業内容等が不詳の事業所を除く。公務を除く。

資料：総務省「平成26年経済センサス-基礎調査」

◆ 工場やお店の数には地域の特徴「県民性」がある？

○自動車製造工場が多いのは愛知、そば・うどん店は香川、お好み焼き店は広島が多い

「経済センサス」から、どの地域に、どのような工場やお店が多いのかわかります。

なじみのある産業について人口千人当たりの事業所数でみると、そば・うどん店は香川県、お好み焼き・焼きそば・たこ焼店は広島県など、地域の特徴が見えてきます。

<自動車・同附属品製造業>

順位	都道府県	人口1千人当たり事業所数	事業所数	人口(千人)
	全国	0.10	13,205	127,083
1	静岡県	0.46	1,715	3,705
2	群馬県	0.43	855	1,976
3	愛知県	0.36	2,649	7,455
4	栃木県	0.21	423	1,980
5	岐阜県	0.21	431	2,041
6	三重県	0.20	367	1,825
7	長野県	0.17	353	2,109
8	山梨県	0.14	118	841
9	埼玉県	0.14	1,006	7,239
10	岡山県	0.12	236	1,924

<旅館、ホテル>

順位	都道府県	人口1千人当たり事業所数	事業所数	人口(千人)
	全国	0.33	41,749	127,083
1	長野県	1.63	3,432	2,109
2	山梨県	1.25	1,049	841
3	福井県	0.92	730	790
4	新潟県	0.72	1,668	2,313
5	福島県	0.69	1,328	1,935
6	大分県	0.68	795	1,171
7	沖縄県	0.67	953	1,421
8	島根県	0.67	467	697
9	山形県	0.64	720	1,131
10	静岡県	0.61	2,266	3,705

<そば・うどん店>

順位	都道府県	人口1千人当たり事業所数	事業所数	人口(千人)
	全国	0.24	31,114	127,083
1	香川県	0.59	581	981
2	群馬県	0.47	925	1,976
3	栃木県	0.43	861	1,980
4	山梨県	0.43	364	841
5	長野県	0.39	824	2,109
6	山形県	0.38	434	1,131
7	東京都	0.36	4,806	13,390
8	福井県	0.34	272	790
9	徳島県	0.34	260	764
10	埼玉県	0.31	2,249	7,239

<すし店>

順位	都道府県	人口1千人当たり事業所数	事業所数	人口(千人)
	全国	0.19	24,069	127,083
1	山梨県	0.30	255	841
2	石川県	0.30	346	1,156
3	東京都	0.27	3,620	13,390
4	福井県	0.23	183	790
5	静岡県	0.23	850	3,705
6	富山県	0.23	244	1,070
7	北海道	0.23	1,229	5,400
8	新潟県	0.22	517	2,313
9	長崎県	0.22	302	1,386
10	秋田県	0.22	224	1,037

<お好み焼・焼きそば・たこ焼店>

順位	都道府県	人口1千人当たり事業所数	事業所数	人口(千人)
	全国	0.13	16,551	127,083
1	広島県	0.58	1,656	2,833
2	兵庫県	0.35	1,947	5,541
3	大阪府	0.32	2,850	8,836
4	徳島県	0.30	232	764
5	高知県	0.28	210	738
6	京都府	0.23	609	2,610
7	岡山県	0.23	433	1,924
8	和歌山県	0.22	211	971
9	愛媛県	0.22	303	1,395
10	奈良県	0.19	259	1,376

<美容業>

順位	都道府県	人口1千人当たり事業所数	事業所数	人口(千人)
	全国	1.38	175,488	127,083
1	秋田県	2.30	2,382	1,037
2	山形県	2.12	2,400	1,131
3	高知県	2.04	1,507	738
4	徳島県	1.97	1,503	764
5	宮崎県	1.94	2,165	1,114
6	島根県	1.89	1,320	697
7	青森県	1.89	2,497	1,321
8	鳥取県	1.88	1,080	574
9	新潟県	1.86	4,312	2,313
10	福井県	1.82	1,441	790

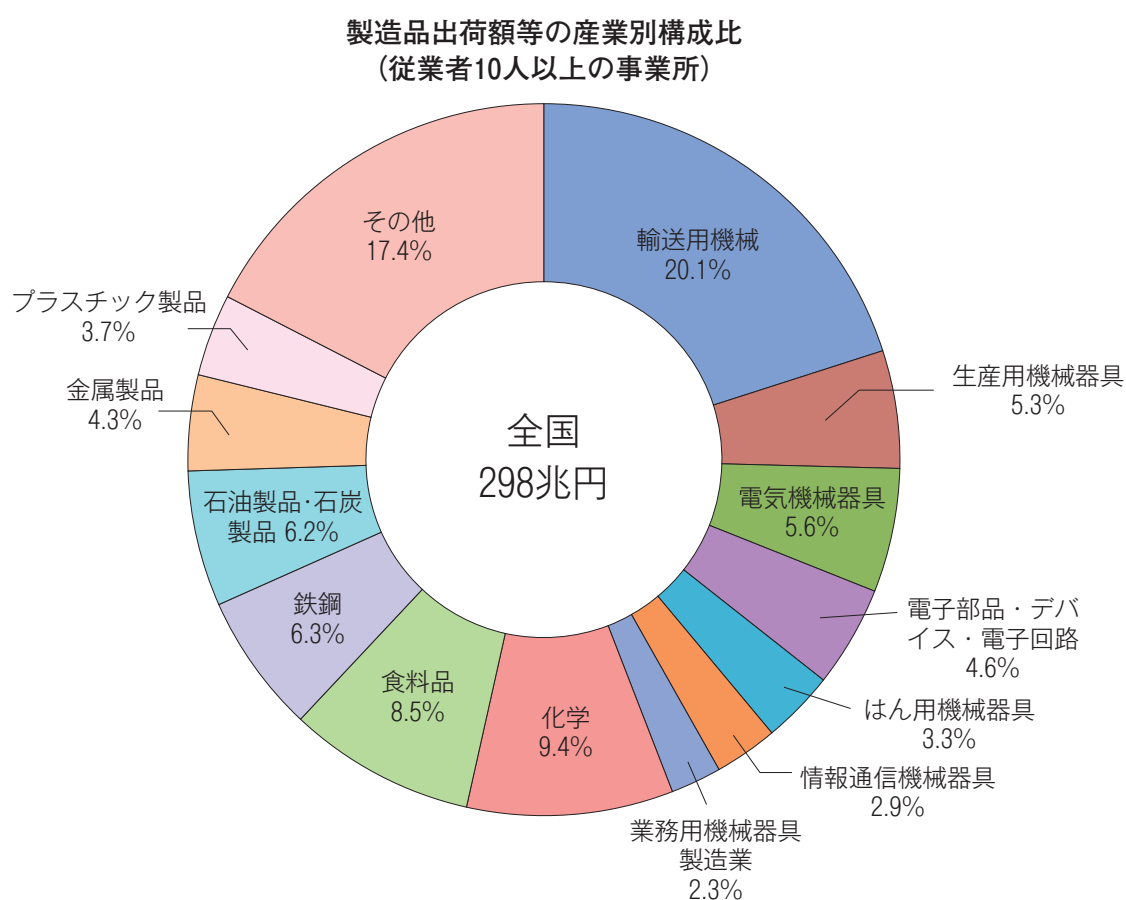
資料：総務省「平成26年経済センサス－基礎調査」

◆ 日本の製造業ではどのようなものが作られている？

○輸送用機械が多い

トップは20.1%を占める輸送用機械です。ここには、自動車に加え、航空機、ロケットなどの航空宇宙関係も含む最先端の産業です。輸送用機械に加えて、生産用機械、電気機械、電子部品、はん用機械、情報通信機械などの機械製造業を合計すると44%と、半分近くを占めており、機械関係が日本の主力であることがわかります。

次いで、化学が9.4%、食料品が8.5%、鉄鋼、石油製品などが続きます。



資料：経済産業省「平成26（2014）年工業統計調査」

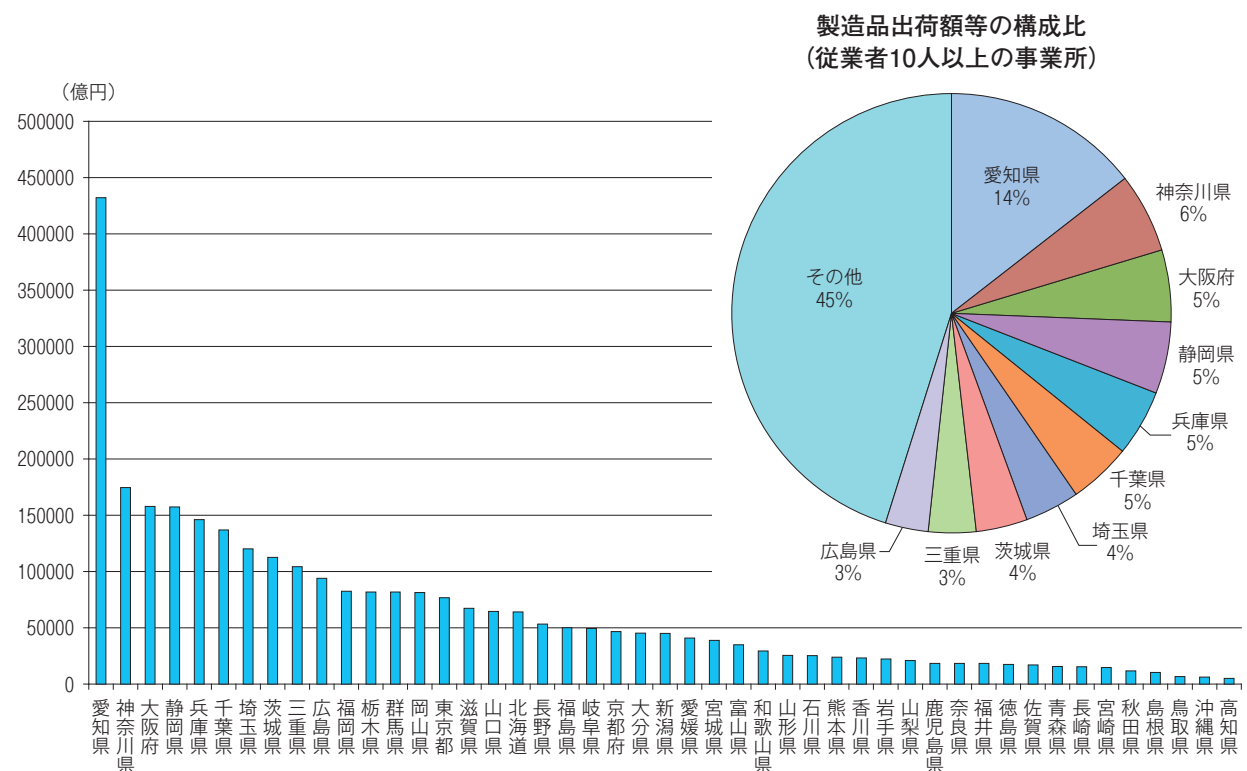
◆ 製造業が盛んな県はどこ？

○ トップは愛知県

「工業統計」（2014年）から都道府県別に製造品出荷額等を見ると、トップは愛知県で最も多くを占めています。

次いで、神奈川県、大阪府、静岡県、兵庫県と続いており、10番目までの府県で全国の55%を占めています。

製造品出荷額等（2014年）
（従業者10人以上の事業所）



資料：経済産業省「平成26（2014）年工業統計調査」

◆ 農業が強いのはどこだろう？

○農業で働いている人が最も多いのは北海道

「農林業センサス」(2015年) でみると、農業就業人口が最も多いのは北海道です。北海道は、ばれいしょ、たまねぎ、とうもろこしなど、さまざまな農産物の生産で全国トップを占めており、この他「生乳」などの畜産も盛んです。

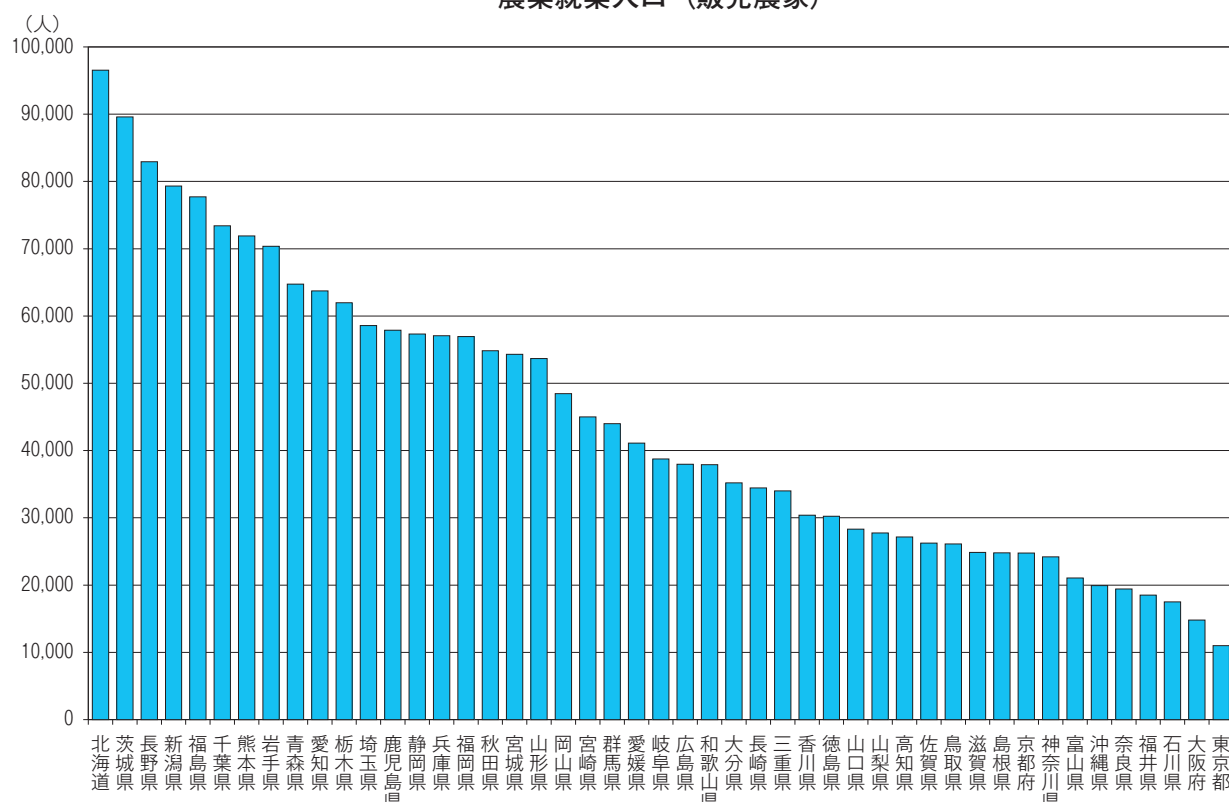
2番目に農業就業人口が多いのは、茨城県です。メロン、はくさい、ピーマンなどが全国トップで、東京都中央卸売市場では茨城県産の青果物が多くを占めています。

続いて多いのは長野県です。セロリ、レタスなどの高原野菜や、しめじ、なめこなどのきのこ類が全国トップとなっており、ぶどう、リンゴなどの果物の生産も盛んです。

農林水産省のホームページでは、各都道府県・各市町村の農業の姿が詳しく紹介されていますので、是非調べてみてください。

わがマチ・わがムラー市町村の姿－「グラフと統計でみる農林水産業」 <http://www.machimura.maff.go.jp/machi/>

農業就業人口（販売農家）



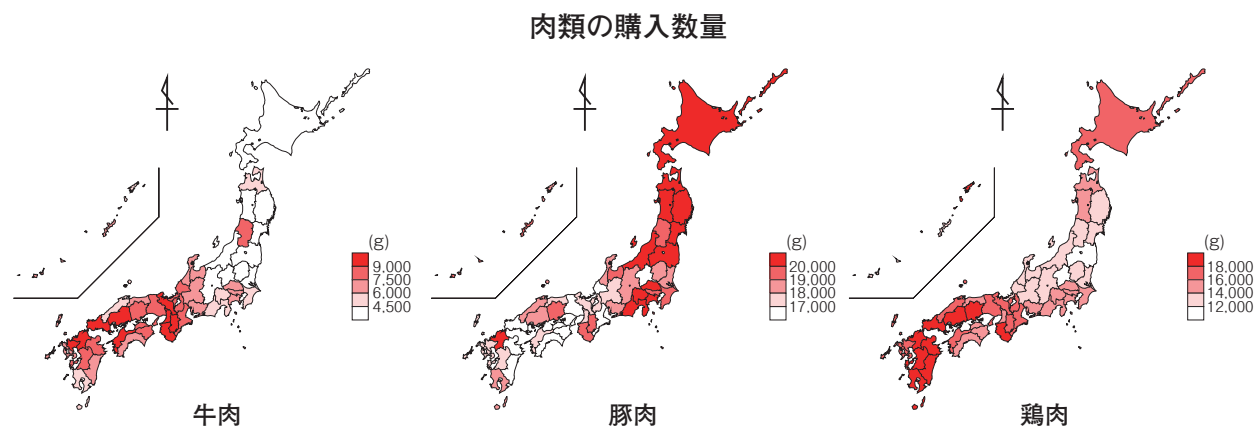
資料：農林水産省「2015年農林業センサス」

◆ 西日本は牛肉・東日本は豚肉・九州は鶏肉が好き

○肉の好みには地域性がある

肉の購入数量を「家計調査」から都道府県庁所在市別（2013～2015年の3カ年平均）にみると、牛肉は第1位が京都市、続いて、和歌山市、奈良市、松山市、大阪市などと西日本が多くなっています。豚肉は第1位が青森市、続いて、札幌市、静岡市、新潟市、横浜市、甲府市などと東日本を中心に多くなっています。鶏肉は第1位が福岡市、続いて、熊本市、山口市、大分市、広島市、岡山市、宮崎市、鹿児島市などと九州を中心に多くなっています。

このように購入する肉の種類には地域性があることがわかります。

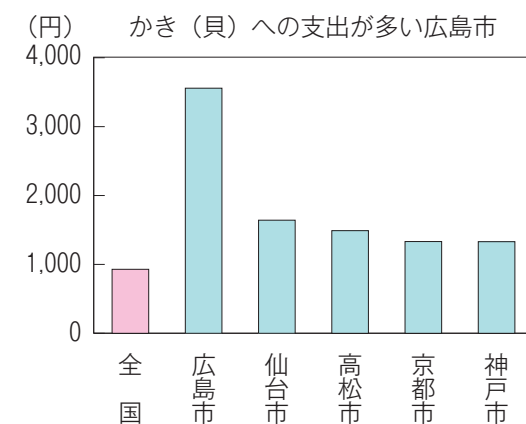
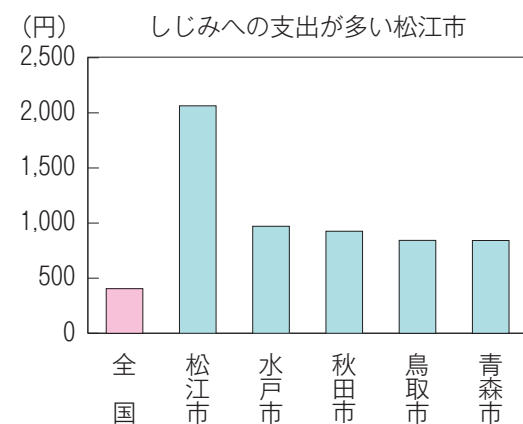
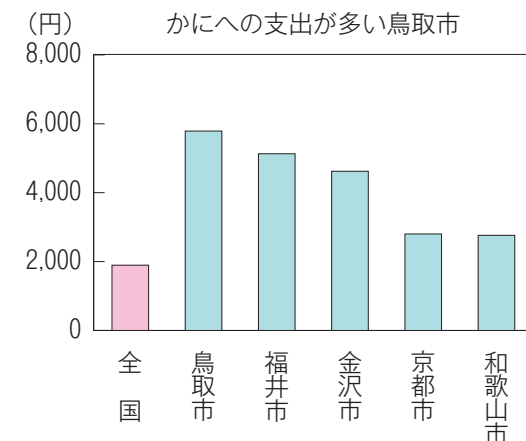
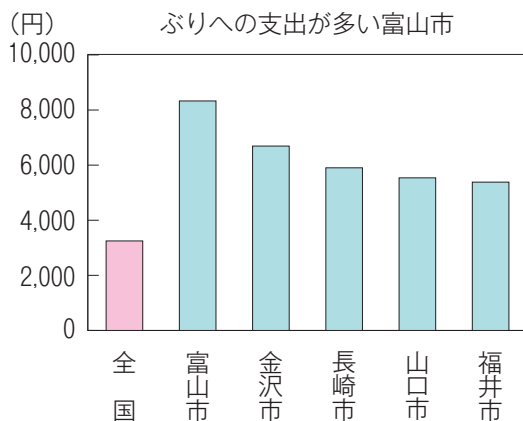
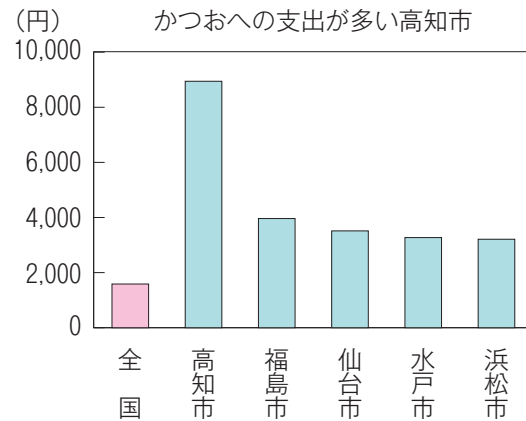
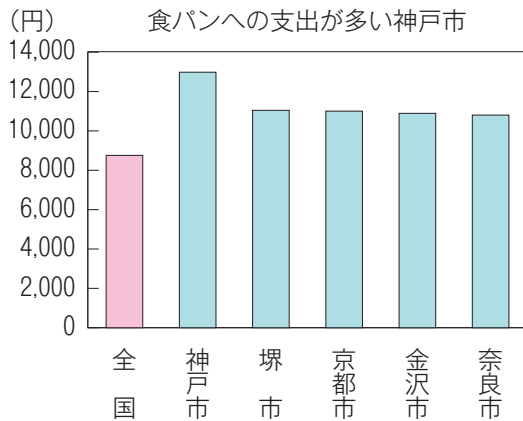


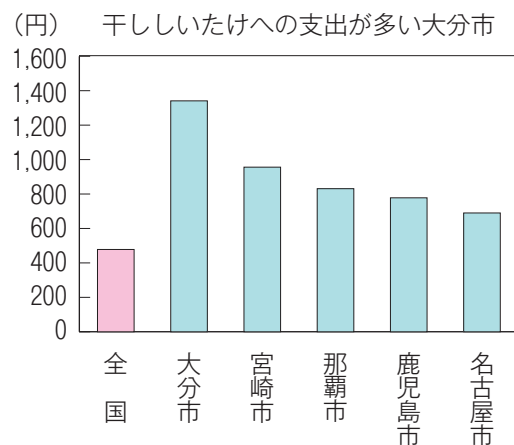
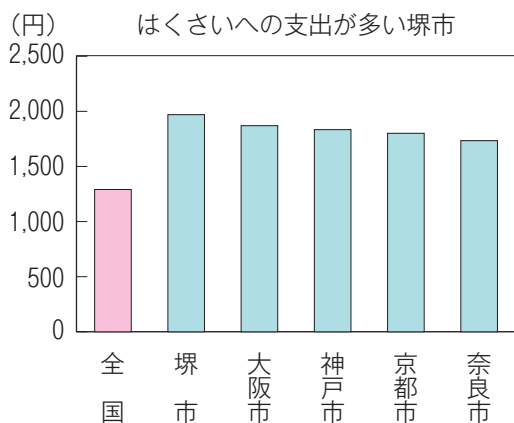
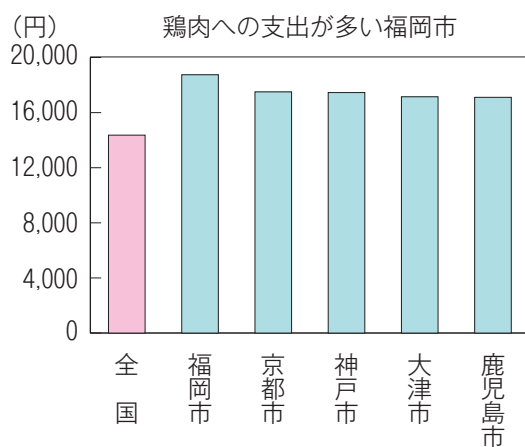
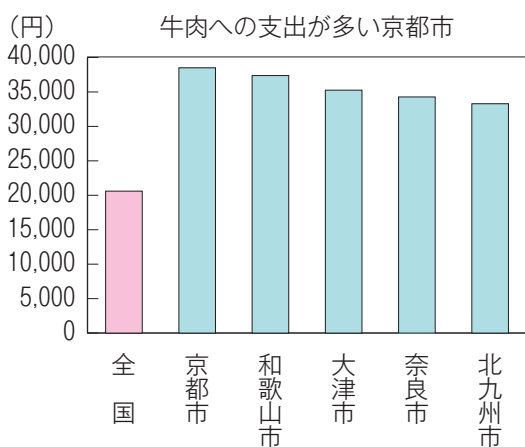
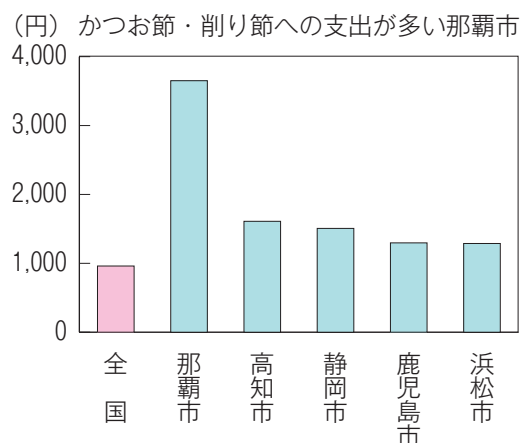
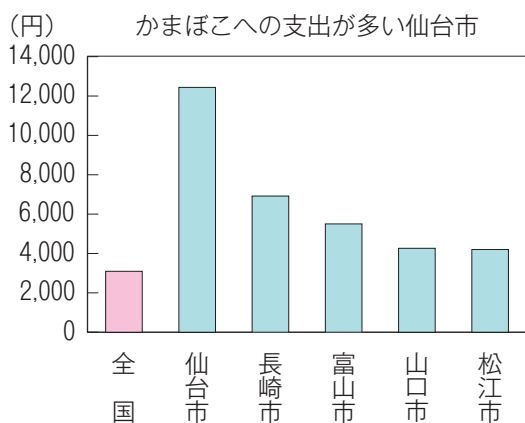
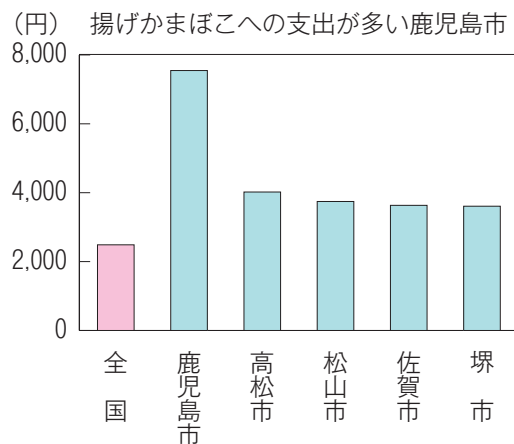
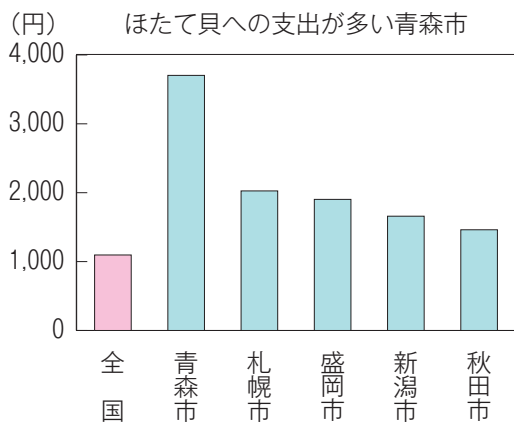
注：都道府県庁所在市別の二人以上世帯の2013～2015年の購入数量の平均
資料：総務省「家計調査」

◆「ケンミン」の好物は何？

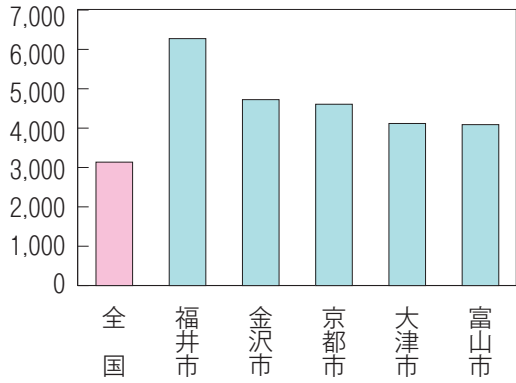
○家計調査から都道府県民がどのようなものが好きか、県民性がわかります。

「家計調査」から、いろいろな食べ物の支出額について都道府県庁所在市、政令指定都市別のランキング（2013（平成25）年～2015（平成27）年平均）がわかります。クイズ番組やランキング情報などで取り上げられている身近な統計です。主な食べ物について、みてみましょう。

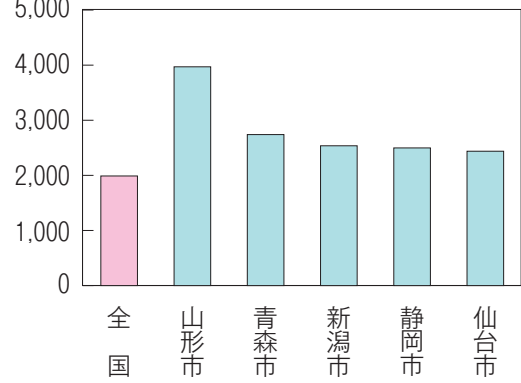




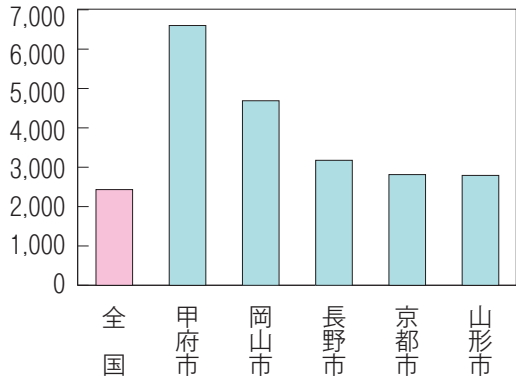
(円) 油揚げ・がんもどきへの支出が多い福井市



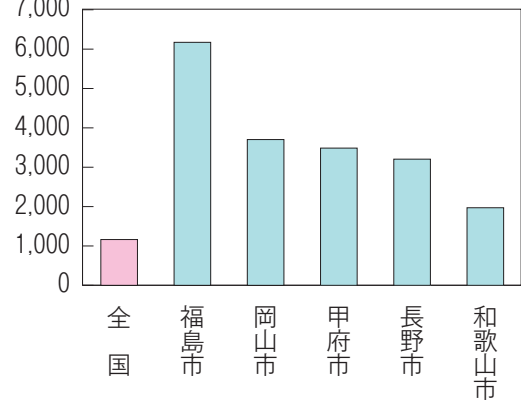
(円) こんにゃくへの支出が多い山形市



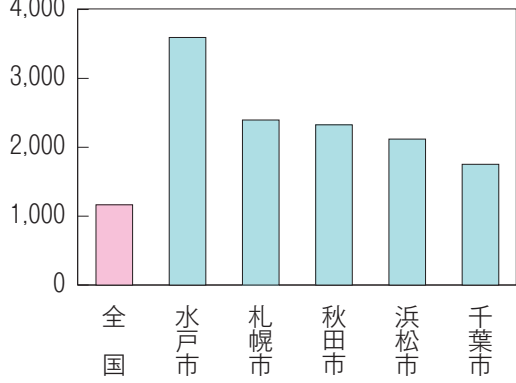
(円) ぶどうへの支出が多い甲府市



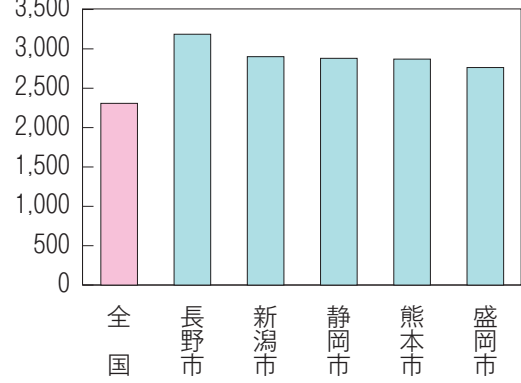
(円) ももへの支出が多い福島市



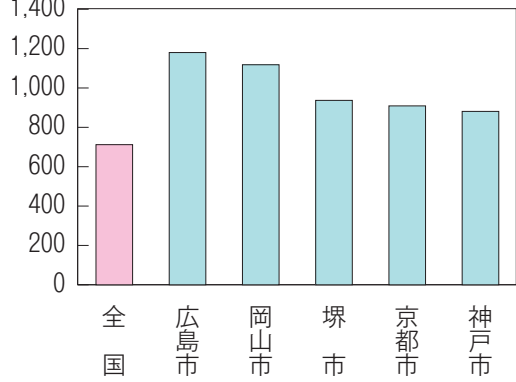
(円) メロンへの支出が多い水戸市



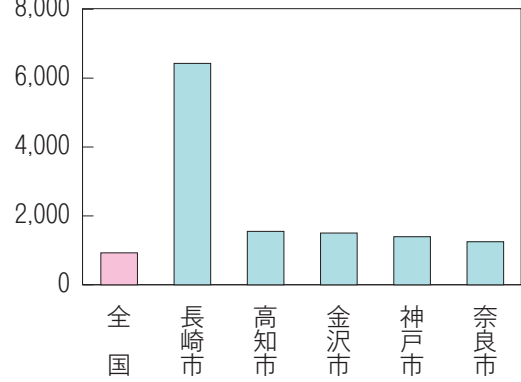
(円) みそへの支出が多い長野市

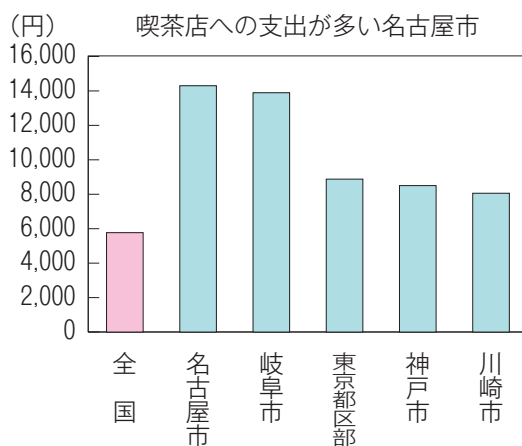
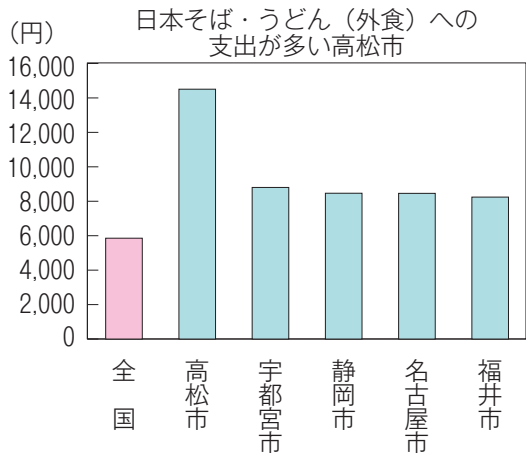
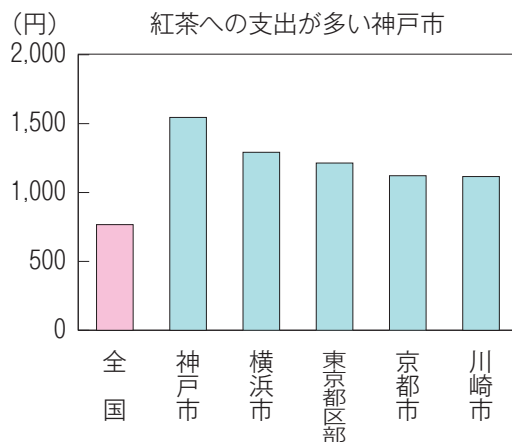
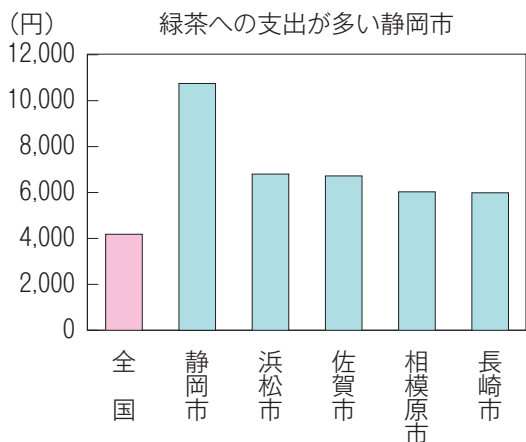
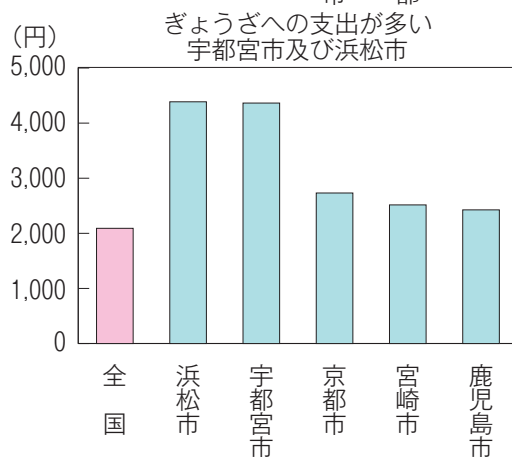
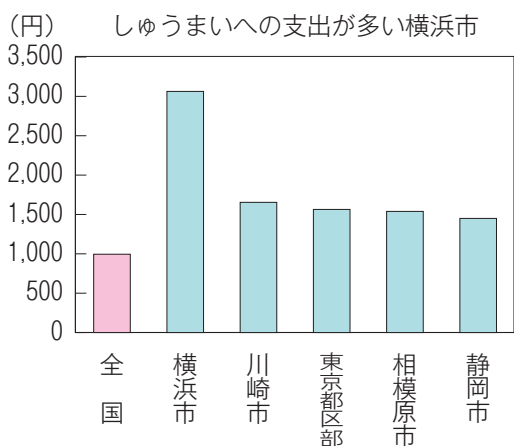
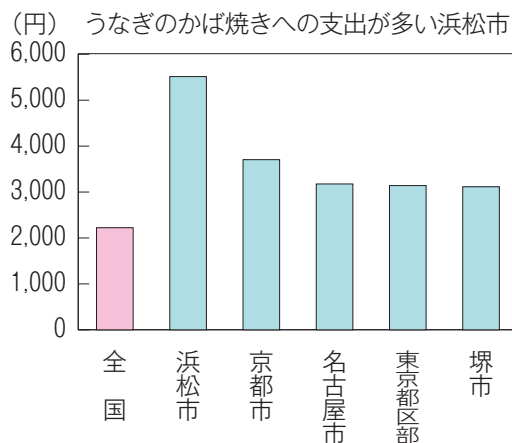
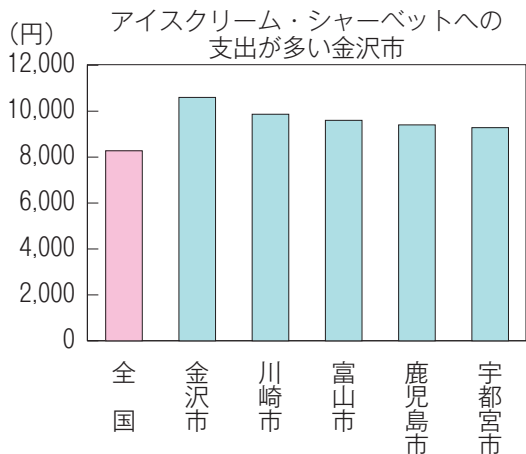


(円) ソースへの支出が多い広島市



(円) カステラへの支出が多い長崎市





第5部

統計をさらに知る ～その2～

「e-Stat」を使ってみよう

1 「e-Stat」ってなんだろう？

「日本の人口は何人だろう？」
「どんな産業で働いている人が多いのだろう？」
「自分の都道府県には、どれくらいの中学生がいるのだろう？」
「自分の都道府県の日照時間は、どれくらいだろう？」
このような、統計に関する問題を解決してくれるのが、「e-Stat」です。
ここでは、「e-Stat」の紹介をしましょう。

「e-Stat」のトップページ画面



「e-Stat」は、日本の統計が閲覧できる政府統計の総合窓口です。

「e-Stat」のアクセス方法

e-Stat 検索 
<http://www.e-stat.go.jp/>

2 統計データを探そう！

第2部その1では、都道府県の人口を取り上げています。人口は、国勢調査によって調べられています。ここでは、都道府県の人口を調べることを例として、「e-Stat」の使い方を説明します。

■ 統計名から調べる場合

① 「主要な統計から探す」→「国勢調査」とクリックします。



② 「時系列データ」→「男女、年齢、配偶関係」とクリックします。



③ 「1 男女別人口及び人口性比－全国、都道府県（大正9年～平成22年）」の欄の **Excel** をクリックし、ファイルを開きます。

表番号	統計表	
1	男女別人口及び人口性比－全国、都道府県(大正9年～平成22年)	Excel
2	年齢(総人口), 男女別人口及び人口性比－全国(大正9年～平成22年)	Excel
3	年齢(総人口), 男女別人口及び人口性比－都道府県(昭和35年～平成22年)	Excel
4	配偶関係(区分), 年齢(総人口), 男女別15歳以上人口－全国(大正9年～平成22年)	Excel
5	年齢(区分)別人口－全国、都道府県(大正9年～平成22年)	Excel
6	年齢(区分), 男女別人口及び年齢別割合－都道府県, 市町村(昭和55年～平成22年)	

これは、47都道府県のすべてのデータを入手する場合に、最も簡単な方法です。



■ 「地域別統計データベース」 から調べる場合

- ① 「都道府県・市町村のすがた」→「地域別統計データベース」とクリックします。
「都道府県データ」に●がついていることを確認し、「地域選択」をクリックします。



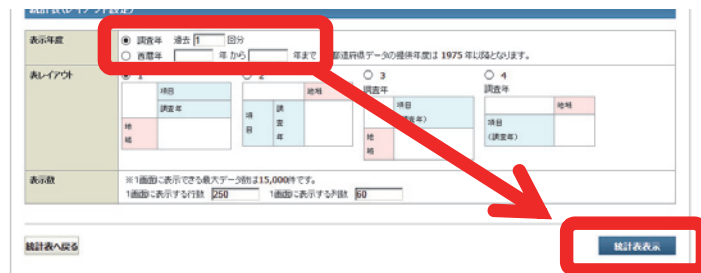
- ② 自分の都道府県を選択し、「項目選択」をクリックします。



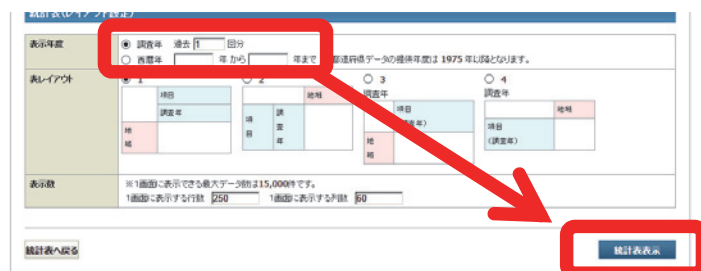
47都道府県すべてのデータを入力する場合の便利な方法

- ① 「地域区分から」→「地域検索」とクリックします。
- ② 「北海道」から「沖縄」までを反転させ、「地域選択」→「項目選択」とクリックします。

- ③ 「A 人口・世帯」→「A1101人口総数（人）」→「項目選択」とクリックし、「統計表表示」をクリックします。



- ④ 「表レイアウト・年度変更」をクリックし、西暦年に「2010」を入力し、「統計表表示」をクリックします。



3 表やグラフを作ろう！

「e-Stat」には、それ自体にグラフ作成機能がついています。ここでは、DB を選択した状態でのグラフの作り方を説明します。

- ① 知りたいデータが含まれている統計表を選択し、「DB」ボタンを選択します。

統計表一覧

各行にある [Excel](#) [CSV](#) [PDF](#) [DB](#) のボタンを押すと該当データが表示されます。

学校基本調査 > 平成27年度(速報) > 初等中等教育機関、専修学校、各種学校 > 学校調査・学校通信教育調査
> 初等中等教育機関、専修学校、各種学校(指定都市等) > 中学校

2015年8月6日 表 [DB](#)

表番号	統計表	Excel
11	中学校の学校数・学級数・生徒数及び教職員数	Excel

- ② 選択した統計表に含まれている項目の中から、表、グラフにしたい項目を選択し、作成したいグラフの種類を選択します。

※項目選択の画面を変更しました。詳細はヘルプを参照ください。

項番	事項名	選択項目数	解説表示	項目の選択	表示位置
1/2	学校種別(年次統計) 在学者数	0/14	解説	<input type="checkbox"/> 選択	列 1
2/2	時間軸(年次)	0/66		<input type="checkbox"/> 選択	行 1

レイアウトイメージ

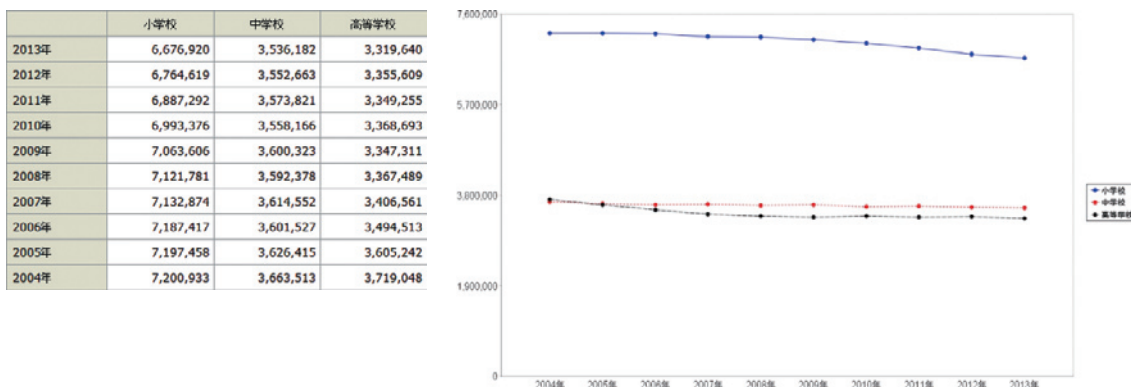
表示オプション

	有無
表題の表示	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
罫線の表示	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
単位の表示	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
1画面に表示する行数	60
1画面に表示する列数	11

統計表表示へ

[表選択へ戻る](#) [印刷](#) [ダウンロード](#) [グラフ変更](#) [他の統計データ](#) [論議](#)

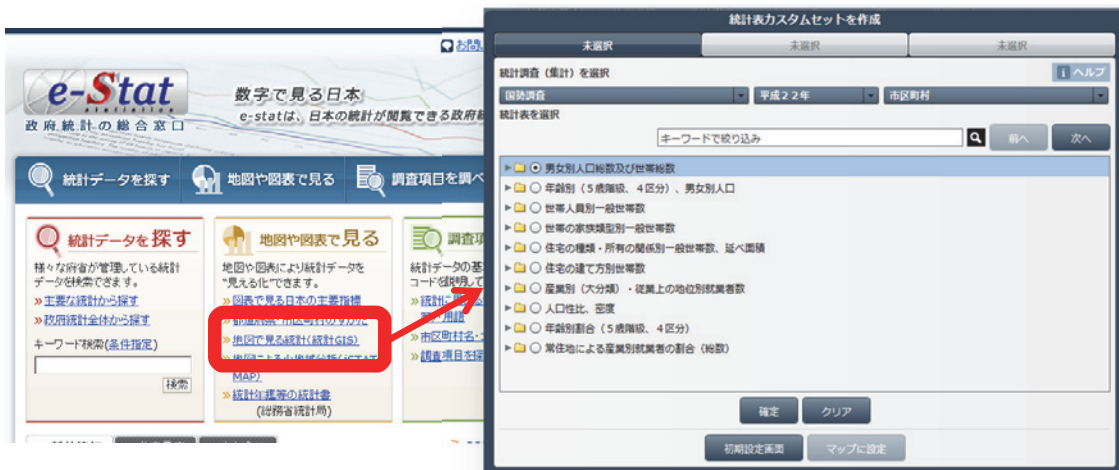
- ③ 「表表示」、「グラフ表示」ボタンをクリックすると、それぞれ目的の表、グラフが表示されます。



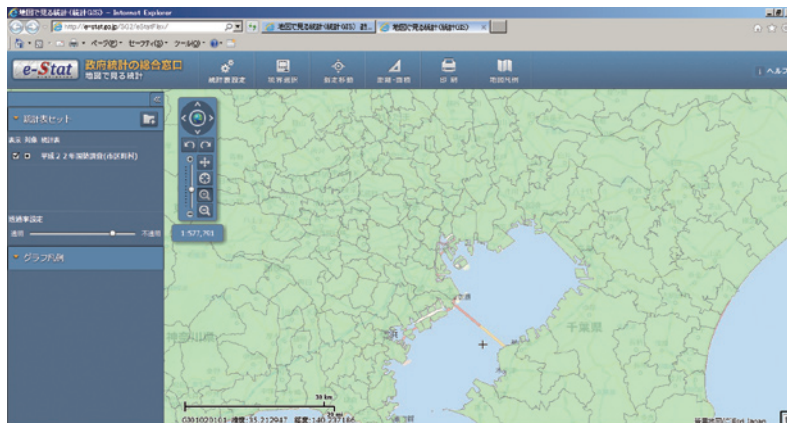
4 統計データを地図に表そう！

「e-Stat」には、GIS（地理情報システム）といって、地図上にデータを色分けして示す機能もついています。

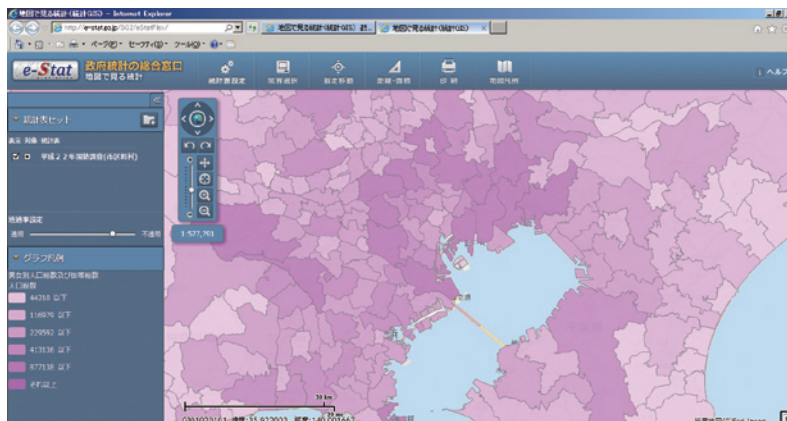
- ① 「地図で見る統計（統計 GIS）」を選択し、見たいデータが含まれている統計調査を選択します。



- ② 画面上に地図が表示されるので、見たい地域へ移動し、階級、色などの設定を行います。



- ③ 地図上に、見たい統計データが、階級別に色分けされた形で表示されます。



5 実例「日照時間を調べよう」（例：北陸・中部地方の場合）

本州のほぼ中央に位置する北陸・中部地方について、日照時間の長さを比較してみよう。

- ① 「都道府県・市区町村のすがた」を選択します。



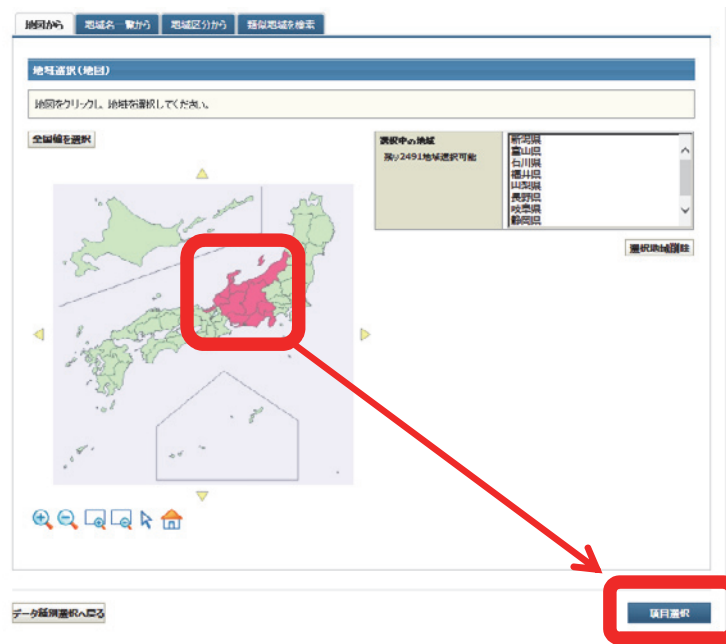
- ② 「地域別統計データベース」を選択します。



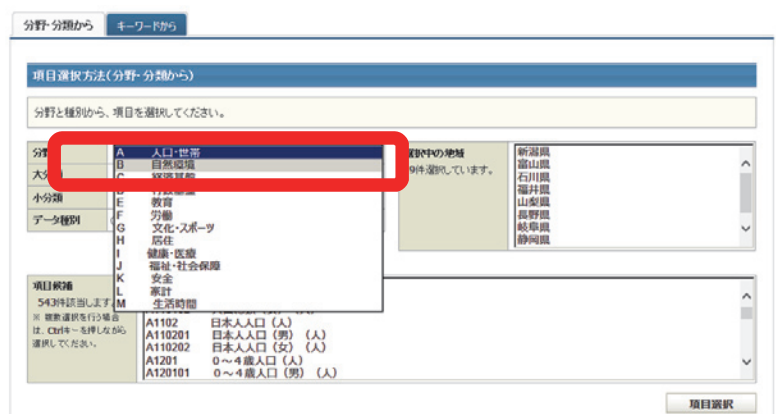
- ③ 「都道府県データ」を選択したのち、「地域選択」を選択します。



④ 「中部地方」を地図上で選択し、「項目選択」を選択します。



⑤ 「分野」から「B 自然環境」を選択します。



⑥ 「項目候補」から「日照時間」を選択し、「項目選択」に続いて「統計表表示」を選択します。



操作のワンポイント
 今回の検索結果は、44件と少ないため、直接「項目候補」から選んでいます。検索結果が多い場合は、「大分類」「小分類」を使って絞り込むと見つけやすいでしょう。

⑦ 「中部地方の日照時間」のデータが見つかりました！

操作のワンポイント
 ここをクリックすると、気象庁観測部観測課の「過去の気象データ」が出典であることがわかります。

地域名	日照時間(年間)(時間)
新潟県	1,661.6
富山県	1,785.9
石川県	1,868.3
福井県	1,739.9
山梨県	2,461.5
長野県	2,129.8
岐阜県	2,315.6
静岡県	2,297.6

⑧ 「グラフ表示」を選択します。

⑨ グラフを表示させることができます。

操作のワンポイント
 ここをクリックすると、グラフの形を変更することができます。

地域名	日照時間(年間)(時間)
新潟県	1,661.6
富山県	1,785.9
石川県	1,868.3
福井県	1,739.9
山梨県	2,461.5
長野県	2,129.8
岐阜県	2,315.6
静岡県	2,297.6

本州の中央に位置する北陸・中部地方にあっても、太平洋側の県と日本海側の県では、日照時間にかかなりの差があることがわかります。

ここで作成したグラフを印刷したり、表をダウンロードしたりすることもできます。

統計調査に協力することは、とっても大切なこと!!

1 毎日の暮らしのなかで“ふれて、さわって、使っている”統計データ

ここにも、あそこにも、どこにでも統計がある。

携帯電話、スマートフォン、パソコンなどのICT機器は、いまや持っていない人はいないほど普及していて、インターネットの利用人口は国民の8割を超えています。私たちは、これらを利用して、日本の動きや世界の動きをタイムリーに知ることができます。世の中の動向を知る上で、統計データは欠かせぬものです。また、統計データは身近な暮らしにも密着しています。たとえば、農産物や漁獲高の生産量、今年の冬は暖冬といった気象予測、連休の行楽地への人出の状況予測、大学受験・就職率、失業率など、私たちは、毎日の暮らしのなかで統計データに“ふれて、さわって、使って”生活をしています。



長い期間で統計データを見ていると面白いことなどいろいろなことがわかる。

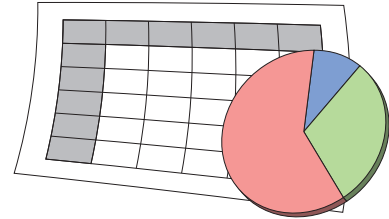
テレビ、ラジオ、新聞などのマスメディアの情報は、最近の情報であったり、一部の出来事であったり、関心をもたれることに限ったスポット的なものとなっている場合があります。見たい、知りたい情報を必要最小限で切り取って提供することは意味のあることですが、それを取り巻くより広い周辺情報について統計が整っていることによっていろいろなことがわかります。

たとえば、現在、人口の1番多い都道府県は東京都であることは皆さんもよく知っていますね。これはずっと昔からかというと、1884（明治17）年の時点では、全国で人口が1番多かったのは新潟県なのです。日本で国勢調査が初めて実施された1920（大正9）年以前の人口は戸籍等に基づいて計算されていますが、1884（明治17）年、乙種現住人口によると、当時の総人口は3745万人で、新潟県が158.3万人で1番多く、東京都は115.3万人でした。これは、第1次産業が盛んな時代は、農村に多くの人々が集中していたことを表わしています。しかし、日本が近代化するなかで、第2次産業、第3次産業が盛んになり東京に人口が集中しました。その様子は、2010年までの人口増加の割合を計算すると、新潟県の約1.5倍増に対して、東京都は約11倍増となったという統計情報からはっきりしますね。

他にも、携帯電話の1世帯当たりの1年間の通信料をみると、2000年は2万8598円であったのに対して、2008年は9万2098円となっていて、8年間で3倍以上に増加してい

ることがわかります。これは、小中学生や高齢者が携帯電話を利用するようになるなど、携帯電話の普及が急速に進んだことによります。統計データを長い期間で眺めてみると、いろいろ面白いことがわかります。

2 統計は“国家存立の基盤”



統計は“国家存立の基盤”でもあります。

みなさんは、病気になったとき、熱を計ったり病院でいろいろな検査を受けたことがありますね。患者さんの状態を正確に知るために、数値はとても大切な役割を果たします。それと同様に、国の状態はどうなっているのかを正確に知るためには、統計の数値が必要になります。

昔から国家の運営には、税や労力などのために、国のどこにどれだけの人がいる、どれだけの食料自給力があり、どのような生活を送っているのかなど、国家の人力、財力の実情を正確に把握する必要がありました。たとえば、フランスでは、ナポレオン（1769～1821年）によって、統計局が設置され、政府によって統計が整備されるようになりました。各国で最初の近代的なセンサス（人口調査）が行われたものこの頃です。

日本においても、大化の改新後の646年には、全国的な戸籍調査が行われ、これは1004年までの約360年もの間、行われていたようです。その後、「検地」「人掃（ひとばらい）」「宗門改（しゅうもんあらため）」「人別帳（にんべつちょう）」などの戸籍調査が、歴代の為政者により実施されてきました。

このように、統計は、いつの時代にも国家存立と密接に結びついており、国の基盤を成すものとして、統計にはいくつかの大切な役割があります。

国の状態を的確に把握すること

第一に、国の状態を的確に把握することです。私たちは、社会の一員として、日本の社会がどのような状態にあり、どのような方向に向かっているかを常に正しく知っておく必要があります。私たちの暮らし向きは社会全体の動きによって左右されますので、個人個人が社会の変化に対応してどのように行動したらよいか考えておく必要があります。

また、国の統計を見れば、人々の暮らしが豊かになっているのかどうか、お金や資源が効率的に使われているのかどうか、生活に困っている人がどれくらいいるのかなど、国民の暮らしの実態や経済社会全体の動きなどがわかります。国民が自分の暮らしを工夫したり、政治に参加したりする場合には、このような統計から明らかになる情報が役

に立ちます。

つまり、国民それぞれが国の状態を正しく知るためには、それを客観的な数字で示した統計が必要なのです。そこで、政府は、日本の国のことが誰にでもわかるように、国の状態を表す統計を作成して公表しています。

公平・公正な行政運営の基準

第二に、国や地方の行政の運営を公平・公正に行う基準を与えるための役割です。国や地方公共団体は、国民、県民、市民などを対象にしてさまざまな行政を行っています。その例としては、小中学校等の公共施設の整備、消防、警察等の公共サービスの提供、生活保護等の補助金の給付などがよく知られていますが、それらを公平に行うためには、正確で信頼できる統計が必要なのです。もしも統計がなかったとしたら、たとえば、どこに施設を建設するか、誰にどのようなサービスや補助金を提供するかなどといった重要なことが、それを担当する職員の個人的な勘や判断、これまでの慣習などで決められかねません。そのような決め方は公平・公正ではありませんし、お金（税金）の使い方として効率的でもないでしょう。

このような問題が起こることのないように、行政を行う上で多くの人が納得できる客観的な基準として、国が統計を作成しています。

世界の中の日本

第三に、国際社会の中で日本の置かれた状況を正しく理解するための役割です。日本は、外交、貿易、人的交流などさまざまな形で国際社会と密接なつながりを持っています。日本の人々が今後も豊かな暮らしを続けていくためには、「世界の中の日本」がどのような状態にあるのか、理解しておくことが必要です。たとえば、日本は世界の中で何番目の人口規模でしょう？どの国からどれだけ天然資源を輸入しているでしょう？どのような物をどれだけ輸出しているでしょう？地球温暖化ガスをどれだけ排出しているでしょう？日本が世界の国々とともに平和に発展していくために、自分の国のことを知ることは大切なことです。また、外国の人たちも、日本はどのような国なのか、どのように変化しているのかということを知りたがっています。世界の国々がお互いの状況を正しく知ることができれば、無用の誤解や衝突を避けることもできます。統計データは、世界の共通の情報として、日本の国が世界の中で置かれている状況を示してくれるものです。



3 みんなで作る統計、みんなで社会に活かす統計

国の統計機関が作成する統計データは、体の中を血液が循環するように、社会の中を循環しています。国民は、統計調査への回答を国の統計機関に提出し、国の統計機関は、それを統計に取りまとめて国民に還元しています。その統計は、行政や企業、個人に幅広く活用されることを通じて、国民にとって豊かで暮らしやすい社会を作るのに役立てられます。

そのような意味で、統計は社会の共有財産であることがわかります。

人によっては、統計調査に回答することを面倒に感じたり、自分の情報の取扱いについて不安を感じたりする場合もあるのではないかと思います。しかし、統計は社会全体の協力によって作成され、社会の共有財産として活用されるものです。統計調査への回答内容については、法律によって厳格な秘密保護の仕組みも設けられています。統計調査に対して漏れなく正確に回答することが、ひいては豊かで暮らしやすい社会につながっていくのです。

4 統計を上手に活用しよう！

これまで述べたように、統計は、みんなで作るもの、みんなで社会に活かすものです。学校で「統計」について学ぶのは、私たち一人ひとりがさまざまな統計から役に立つ情報を導き出す力を身につけるためです。

本書は、統計的問題解決のプロセスの習得に関わる実践的な学習を通じて、自ら学び、自ら考えることに役立てていただくための補助教材として作成しました。地域、社会、健康、環境等の自らを取り巻く現実世界の問題について、統計データに基づいて論理的に考える大切さ、その有用性に気付いていただくとともに、さまざまな統計を上手に暮らしに活用してもらえれば、これまでよりも賢く考え、行動することができるようになります。

同時に、国の統計は、政府や地方公共団体、調査を担っている統計調査員が、長年、努力してきたことにより整備されているものであり、統計調査への協力の重要性について思いを巡らせていただければと思います。





～統計あれこれ②～

統計調査員のしごと

みなさん！「統計調査員」という仕事、知っていますか？

「統計調査員」は、正確な統計を作るために調査現場の最前線で活躍している人たちで、なくてはならない人です。みなさんの家庭（「世帯」といいます）や企業・事業所を訪問して調査票を配布し、統計調査の趣旨や内容などについて説明するのが調査員の方々の仕事です。記入してもらった調査票の回収や点検、整理も担っており、統計調査の仕事の中で最も基本的かつ重要な仕事です。

下の写真は、今から約100年前の1920（大正9）年の第1回国勢調査のときに、石垣市の調査員の方々を写したものです。国の仕事をするということで、地方では名士の方々が担いました。このときには、全国に約27万人の国勢調査員が置かれました。この第1回国勢調査以降、国の重要な統計は統計調査員による統計調査で作成されることが多くなりました。

正しく統計を作成するためには、調査対象の方々に調査の趣旨や内容などについてよく理解していただき、調査票に正しく記入していただくことがとても大切です。そのためには、統計調査の第一線で、調査対象の方々と直に應對して、理解と協力を得る統計調査員の役割がとても重要なのです。

統計調査員の方々が回収した1枚1枚の調査票が、「統計」としてまとめられ、統計調査の結果として世の中に公表され、さまざまところで広く利用されることとなります。統計調査員の方々の仕事は、とても大切な責任の重い仕事です。

みなさんが利用する「統計」は、このような長年にわたる統計調査員の方々の努力があって整備されていることを是非知っておいてください。また、将来、公的な統計の調査の対象になったときには、調査に協力をするのを忘れないでくださいね。



1920（大正9）年 第1回国勢調査・統計調査員

国勢調査員とは

国勢調査員は市区町村の推薦に基づいて総務大臣が任命した非常勤の国家公務員です。

調査員は下のような国勢調査員証を身につけています。

調査員証（見本）

調査員が着用している制服

調査員が持ち歩く、手さげ袋

もれなく、正確な調査を行うために、代表者の名字と住所をおたずねします。